

問題

問 1

正解

完璧



直前
CHECK

“システム管理基準”でいう、システムテストの総合テストで使用するテストデータの作成に対する監査項目はどれか。

- ア テストチームが、業務活動の中でシステムが使用されるケースを想定してテストデータを作成しているか。
- イ 品質保証部門が、要求仕様を満たしているシステムであることをテストするテストデータを作成しているか。
- ウ プログラマが、自分で作成したプログラムのすべての経路をテストするテストデータを作成しているか。
- エ プログラミングチームが、プログラム間のインタフェースをテストするテストデータを作成しているか。

問 2

正解

完璧



直前
CHECK

“システム監査基準”における監査業務のうち、適切なものはどれか。

- ア 監査計画は、予備調査で変更はできるが、本調査の途中では変更しない。
- イ 監査報告書を外部に開示する範囲及び方法を決定する。
- ウ 監査目的に応じた監査報告書を作成し、遅滞なく監査依頼者に提出する。
- エ 予備調査及び本調査は自ラ行い、ほかの専門家の支援を受けてはならない。



問 1

ア

システム管理基準は、経済産業省が公表するシステム管理に関する実践規範である。前文に「組織体が主体的に経営戦略に沿って効果的な情報システム戦略を立案し、その戦略に基づき情報システムの企画・開発・運用・保守というライフサイクルの中で、効果的な情報システム投資のための、またリスクを低減するためのコントロールを適切に整備・運用するための実践規範である。」と記載されている。

システムテストは、システム管理基準の「5.システムテスト・ユーザ受け入れテスト」に13項目が記されている。

イ：要求仕様を満たしているかどうかのテストは、品質保証部門ではなく受け入れ部門が実施する。

ウ、エ：プログラミングに関するテストは、システムテストではなく開発時に実施する。特に重要なプログラムは、プログラム作成者以外の者がテストする必要がある。



問 2

ウ

システム監査基準は、システム監査業務の品質を確保し、有効かつ効率的に監査を実施することを目的とした監査人の行為規範である（「システム監査基準」Ⅰ．前文）。

ア：システム監査基準では、「監査計画は、事情に応じて適時に修正できるように弾力的に運用しなければならない。」と記載されている。

イ：システム監査基準では、「監査報告書の外部への開示が必要とされる場合には、システム監査人は、監査の依頼者と慎重に協議の上で開示方法等を考慮しなければならない。」と記載されている。これは、監査業務で開示範囲を決定するのではなく、依頼者が主となり開示範囲を設定することである。

ウ：正しい。システム監査基準では、「システム監査人は、実施した監査の目的に応じた適切な形式の監査報告書を作成し、遅滞なく監査の依頼者に提出しなければならない。」と記載されている。

エ：システム監査基準では、「システム監査人は、システム監査の目的達成上、必要かつ適切と判断される場合には、他の専門職による支援を考慮しなければならない」と記載されている。

問題

問

3

正解

完璧

直前
CHECK

“JIS Q 27001:2006”の管理策を参考にして設定した、ノート型PCに対する物理的セキュリティ対策の妥当性を確かめるための監査手続はどれか。

- ア オフィス内を視察し、不在者のノート型PCが施錠されたキャビネットに保管されていることを確認する。
- イ 管理ルールを調べ、ノート型PCを社外に持ち出す場合には、セキュリティ管理者の許可を得るルールになっていることを確認する。
- ウ 教育計画及び教育記録を閲覧し、ノート型PCの安全管理についての社員教育が適切に行われていることを確認する。
- エ 実際にノート型PCを操作して、パスワードを入力しないと利用可能にならない仕組みになっていることを確認する。

問

4

正解

完璧

直前
CHECK

外部委託管理の監査に関する記述のうち、適切なものはどれか。

- ア 請負契約においては、委託側の事務所で作業を行っている受託側要員のアクセス管理が妥当かどうかを、委託側が監査できるように定める。
- イ 請負契約の場合は、受託側要員に対する委託側責任者の指揮命令が適切に行われているかどうかを、委託側で監査する。
- ウ 外部委託で開発した業務システムの品質管理状況は、委託側で監査する必要はなく、受託側で監査すべきである。
- エ 機密度の高い業務システムの開発を外部に委託している場合は、自社開発に切り替えるよう改善勧告する。

**問3****ア**

JIS Q 27001:2006は、ISMSの国際規格であるISO/IEC 27001:2005の国内規格である。ISO/IEC 27001をベースとして、その内容や構成をそのまま日本語化し、日本工業規格としたものである。

完全性とは、情報および処理方法が正確であり、完全であることを保証することである。物理的セキュリティでは、不正侵入や損害、盗難等を考慮したセキュリティ対策である。

ア：正しい。ノート型PCは盗難されるリスクを考慮して、施錠されたキャビネットやセキュリティワイヤによる固定対策が有効である。

イ：監査の視点では、ルールになっていることを確認するだけでなく、ルールが守られていることの確証を確認する必要がある。

ウ：教育の観点での監査であれば正しいが、物理的セキュリティの監査としては誤りである。

エ：パスワードの入力による利用の仕組みは、盗難に対して意味を持たない。物理的セキュリティの観点では誤りである。

**問4****ア**

請負契約・業務委託契約において指揮命令権は受託側にあり、派遣契約において指揮命令権は委託側にある。

ア：受託側要員が委託側事務所に勤務している場合、アクセス管理として委託側と受託側が分離されているかどうかといったことを監査する。

イ：請負契約なので、指揮命令権は受託側にある。

ウ：委託業務の品質管理状況は、委託側が把握している必要がある。

エ：機密度の高い業務システムでも、技術レベル・時間・要員・費用対効果等の関係上、外部委託の方がよい場合もありうる。

問題

問 5

正解

完璧



直前
CHECK

表はコンピュータを利用して行うシステム監査技法についてまとめたものである。(1)～(4)の組合せとして適切なものはどれか。

技 法	主な機能					
	システム のテスト	(1)	(2)	(3)	(4)	稼働中のオンラインシ ステムからのデータ抽出
テストデータ法	○					
汎用監査ソフトウェア法					○	
組込み監査モジュール法					○	○
ITF法	○	○				
並行シミュレーション法	○		○			
スナップショット法			○			
トレーシング法			○			
コード比較法				○		

	(1)	(2)	(3)	(4)
ア	稼働中オンラインシ ステムのテスト	プログラムの検証	データの抽出	プログラムロジックの 分析
イ	稼働中オンラインシ ステムのテスト	プログラムロジックの 分析	プログラムの検証	データの抽出
ウ	データの抽出	稼働中オンラインシ ステムのテスト	プログラムロジックの 分析	プログラムの検証
エ	データの抽出	プログラムロジックの 分析	稼働中オンラインシ ステムのテスト	プログラムの検証

問 6

正解

完璧



直前
CHECK

システム監査における監査証拠はどれか。

- ア 監査業務の全過程において、監査人が収集及び作成した資料である。
- イ 監査対象システムの入力から出力に至る過程を追跡できる一連の仕組みと記録である。
- ウ 監査人が監査証拠を入手するために実施する監査技術の組合せである。
- エ 監査人が監査手続を実施して収集した資料、及び監査人の判断に基づいて評価された資料である。

**問5****イ**

テストデータ法：実際にテストデータを作成し、監査プログラムに投入し、期待した結果が出力されるかを確認する方法。処理正確性を検証する。

汎用監査ソフトウェア法（監査プログラム法）：指定条件にしたがって監査対象ファイル検索、抽出計算等を実施してレポートするもの。

（組込）**監査モジュール法**：監査対象ファイルにより指定抽出条件に合致したデータを監査用ファイルに記録し、レポート出力モジュールを本番プログラムに組み込む方法。

ITF（Integrated Test Facility）**法**：監査対象ファイル中に架空口座（ミニカンパニー）を作り、その口座に各種操作をして処理正確性を確認する方法。統合テスト法、ミニカンパニー法とも呼ばれ、本番稼働中にテストデータを流してテストを行う。

並行シミュレーション法：特定監査目的を検証する機能を持つプログラムを監査用として準備して、監査用プログラムに同一データを入力し、実行結果を比較して正確性を検証する方法。

スナップショット法：監査対象プログラムにあらかじめスナップショットロジックを組み込んでおき、処理過程の要所で論理性を検証する方法。

トレーシング法：特定トランザクション処理を追跡し、プログラムリストを取り、監査対象プログラムの処理過程の正確性を確認する方法。

コード比較法：あらかじめ検証された監査用プログラムと監査対象プログラムとをコーディングレベルで1行ずつ比較し、プログラム改ざんの有無を確認する方法。

**問6****イ**

ア：**監査証拠**を説明したものである。

イ：**監査証跡**は、監査対象の過程を追跡できる仕組みや記録のことである。

ウ：**監査手続**を説明したものである。

エ：**監査証拠**を説明したものである。

問題

問 7

正解

完璧



直前
CHECK

“システム管理基準”で定めている、運用業務におけるソフトウェア管理に該当するものはどれか。

- ア プログラムからの出力情報の利用状況を記録し、定期的に分析する。
- イ プログラムで用いるデータファイルへのアクセスをコントロールする。
- ウ プログラムの違法コピーが発生しないよう教育する。
- エ プログラムのテスト結果を記録し保管する。

問 8

正解

完璧



直前
CHECK

システム監査の実施手順のうち、適切なものはどれか。

- ア 監査対象業務の把握→監査手続書の作成→監査目的の設定→証拠の収集→コントロールの評価・結論
- イ 監査対象業務の把握→証拠の収集→監査目的の設定→監査手続書の作成→コントロールの評価・結論
- ウ 監査手続書の作成→監査目的の設定→監査対象業務の把握→証拠の収集→コントロールの評価・結論
- エ 監査目的の設定→監査対象業務の把握→監査手続書の作成→証拠の収集→コントロールの評価・結論

問 9

正解

完璧



直前
CHECK

情報システムの可監査性を説明したものはどれか。

- ア コントロールの有効性を監査できるように、情報システムが設計・運用されていること
- イ システム監査人が、監査の目的に合致した有効な手続を行える能力をもっていること
- ウ 情報システムから入手した監査証拠の十分性と監査報告書の完成度が保たれていること
- エ 情報システム部門の積極的な協力が得られること

**問7****ウ**

システム管理基準では、次のことが定められている。

- ・Ⅲ（開発業務）4（プログラミング）：プログラムテスト結果の評価・記録・保管
- ・Ⅳ（運用業務）4（データ管理）：データファイルへのアクセスコントロール
- ・Ⅳ（運用業務）5（出力管理）：出力情報の利用状況記録・定期的分析
- ・Ⅳ（運用業務）6（ソフトウェア管理）：プログラムの違法コピー防止教育

**問8****エ**

システム監査基準では、「システム監査は、監査計画に基づき、予備調査、本調査及び評価・結論の手順により実施しなければならない。」と記されている。

監査の流れは、実施準備、基本計画書作成、個別計画書作成、予備調査実施、監査手続書作成、本調査実施、監査調書作成、監査意見・判断明確化・形成、評価・結論検討、監査報告書案作成という流れになる。おおまかには、監査計画→予備調査→本調査→監査報告書作成という流れになる。

予備調査：監査対象情報システムのリスクが識別されているか、リスクアセスメントに基づいたコントロールが整備されているか等、監査対象の実態を把握するために行うもの。質問書・アンケート調査、インタビュー、資料収集・閲覧等。

本調査：現地調査。本調査の監査手続きを適用して、監査証拠（手順書・実施記録等）を入手する。

監査報告書作成：指摘事項をまとめる。

**問9****ア**

ア：処理の正当性（監査証拠・監査証跡）・内部統制（コントロール）を効果的に監査・レビューできるように情報システムが設計・運用されていることは、可監査性として適切である。

イ：システム監査人には監査テーマに合致した監査能力が必要だが、可監査性とは直接関係ない。

ウ：監査報告書完成度は、可監査性とは直接関係ない。

エ：企業がシステム監査の重要性を認識し、被監査部門が積極的に協力することは、監査を円滑に進める要因ではあるが、可監査性とは直接関係ない。

問 10

正解

完璧



直前
CHECK

“情報セキュリティ監査基準”の位置付けはどれか。

- ア 監査人が情報資産の監査を行う際に判断の尺度として用いるべき基準であり、監査人の規範である。
- イ 情報資産を保護するためのベストプラクティスをまとめたものであり、監査マニュアル作成の手引書である。
- ウ 情報セキュリティ監査業務の品質を確保し、有効かつ効率的に監査を実施することを目的とした監査人の行為規範である。
- エ 組織体が効果的な情報セキュリティマネジメント体制を構築し、適切なコントロールを整備、運用するための実践規範である。

問 11

正解

完璧



直前
CHECK

提案依頼書（RFP）によるベンダ選定手続に関するシステム監査の結果、指摘事項に該当するものはどれか。

- ア RFPに、システム化要求事項のほか、あるべき業務モデルも添付していた。
- イ RFP発行後、問合せをしてきたITベンダに対して追加資料を提供していた。
- ウ 提案を希望するITベンダを集めて、RFP説明会を実施していた。
- エ 予算額の範囲を、RFPに明示していた。

問 12

正解

完璧



直前
CHECK

情報システムに対する統制を全般統制と業務処理統制に分けたとき、業務処理統制に該当するものはどれか。

- ア サーバ室への入退室を制限・記録するための入退室管理システム
- イ システム開発業務を委託する際の委託先企業選定手順
- ウ 販売管理システムにおける入力データの正当性チェック機能
- エ 不正アクセスを防止するためのファイアウォールの運用管理

**問 10****ウ**

情報セキュリティ監査基準：情報セキュリティ監査業務の品質を確保し、有効かつ効率的に監査を実施することを目的とした監査人の行為規範。

情報セキュリティ管理基準：組織体が効果的な情報セキュリティマネジメント体制を構築し、適切なコントロールを整備・運用するための実践規範。

ア：監査人が監査上の判断尺度として用いるべき基準は、原則として情報セキュリティ管理基準である（「情報セキュリティ監査基準」前文）。

イ：情報セキュリティ監査基準は、ベストプラクティスをまとめたものではない。

ウ：情報セキュリティ監査基準とは、情報セキュリティ監査業務の品質を確保し、有効かつ効率的に監査を実施することを目的とした監査人の行為規範である（「情報セキュリティ監査基準」前文）。

エ：組織体が効果的な情報セキュリティマネジメント体制を構築し、適切なコントロールを整備・運用するための実践規範は、情報セキュリティ管理基準である。

**問 11****イ**

提案依頼書（RFP）は、情報システムの業務委託を行う際に委託先の企業に具体的な提案を依頼する文書である。RFPにはシステムの概要や構成、発注条件や期間といった内容を記載する。

RFPを提示するには複数の企業に提案を求める場合もあるため、公平な条件で提案を受ける必要がある。

ア、ウ、エ：RFPに記載する内容として問題ない。

イ：問合せをしてきたITベンダのみに追加資料を渡すのは指摘事項となる。追加資料があるのであれば、RFPを提示したすべての企業に渡す必要がある。

**問 12****ウ**

IT全般統制は、全般統制と業務処理統制に分類される。

全般統制：業務処理統制が正確に実行される環境を統制する。開発、運用、保守や会社における組織等を統制する。

業務処理統制：データの正確さや正当性など、業務におけるデータの入出力の正確さの保証が必要とされる。

ア、イ、エ：全般統制に関する記述である。

ウ：業務処理統制に関する記述である。

問 13

正解

完璧



直前
CHECK

金融庁の“財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準”における、内部統制の基本的要素である“統制活動”はどれか。

- ア 経営者の命令及び指示が適切に実行されることを確保するために定める方針及び手続である。
- イ 組織の気風を決定し、組織内のすべての者の統制に対する意識に影響を与えるものである。
- ウ 組織目標の達成を阻害する要因をリスクとして識別、分析及び評価し、適切な対応を行うプロセスである。
- エ 必要な情報が識別、把握及び処理され、組織内外及び関係者相互に正しく伝えられることを確保することである。

問 14

正解

完璧



直前
CHECK

金融庁の“財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準”における、内部統制の固有の限界に当たる事象はどれか。

- ア ITの新技术の導入によって、従来のコントロールが効かなくなる。
- イ アクセス権限の定期的な検証の仕組みがない。
- ウ 固有の利用者IDが発行されていない。
- エ システム開発における標準化がなされていない。

**問 13****ア**

金融庁の“財務報告に係る内部統制の評価及び監査に関する実施基準”（以下実施基準）は、内部統制の基本的枠組み、財務報告に関する内部統制の評価及び報告、財務報告に係る内部統制の監査の基準である。

内部統制は、企業で行われる業務が健全・適正に行われることを管理し、監査、保証を行うことである。

統制活動とは、経営者の命令及び指示が適切に実行されることを確保するために定める方針及び手続をいう。統制活動には、権限及び職責の付与、職務の分掌等の広範な方針及び手続が含まれる。このような方針及び手続は業務のプロセスに組み込まれるべきものであり、組織内のすべての者において遂行されることにより機能するものである。

イ：「経営者」に定義されている内容である。

ウ：「リスクの評価」に定義されている内容である。

エ：「情報と伝達」に定義されている内容である。

**問 14****ア**

金融庁の“財務報告に係る内部統制の評価及び監査に関する実施基準”における**固有の限界**とは、内部統制が本来有する制約のために機能しなくなる可能性があることを事前に示している。しかし、制約があるからといって実施しても意味がないということではなく、制約を考慮した上で実施することが望ましいということである。

・固有の限界

- ① 内部統制は、判断の誤り、不注意、複数の担当者による共謀によって有効に機能しなくなる場合がある。
- ② 内部統制は、当初想定していなかった組織内外の環境の変化や非定型的な取引等には、必ずしも対応しない場合がある。
- ③ 内部統制の整備及び運用に際しては、費用と便益との比較衡量が求められる。
- ④ 経営者が不当な目的の為に内部統制を無視ないし無効ならしめることがある。

ア：②の項目に該当する

問題

問 15

正解

完璧

直前
CHECK

取引データの入力漏れがないことを確保するためのコントロールはどれか。

- ア 責任者が承認した取引データを、入力担当者が入力する。
- イ 取引データに所属部署を設定しておき、その所属部署名を入力する。
- ウ 取引データに連番を付けて、入力後に連番チェックを行う。
- エ 取引データの取引金額の適切性を判断する基準を設けておき、責任者がその基準に照らして入力する取引データを承認する。

問 16

正解

完璧

直前
CHECK

ITサービスの可用性に関して、適切なものはどれか。

- ア ITサービス時間帯以外にシステムが停止した場合でも、可用性は低下する。
- イ システムの構成要素の信頼性を高めない限り、ITサービスの可用性を高めることはできない。
- ウ ビジネス要件を十分に満たす可用性を目指すべきである。
- エ ビジネスを停止させないために、可用性を100%にすべきである。

問 17

正解

完璧

直前
CHECK

不正アクセス禁止法に照らして違法となる行為はどれか。

- ア サーバ管理者が、インターネット経由でサーバにアクセスし、自社の営業秘密をダウンロードした。
- イ 社外の者が、管理者の了解を得ないで、インターネット経由でポートスキャンを行った結果を、Webサイトに公開した。
- ウ 社外の者が、利用者認証能をもたないサーバに、インターネット経由でアクセスし、その企業のデータベースを破壊した。
- エ 社内の正規利用者でない者が、不正に入手したID・パスワードを用いて、LAN経由でサーバにアクセスした。

**問 15****ウ**

- ア：承認したデータであっても、入力担当者の入力漏れが発生する可能性があるため誤りである。
- イ：データと帰属部署の設定を行っても、入力漏れがあった場合に発見できないため誤りである。
- ウ：1,000件の入力データを行い、1,000番までのデータが入力されていることを確認できれば入力漏れはチェックできる。ただし、入力されたデータの誤りは検知できない。本問は入力漏れのチェックについて問うているので、正解となる。
- エ：入力漏れの検知は件数にかかわることであるため、金額のチェックは誤りである。

**問 16****ウ**

- ITサービスの可用性とは、必要とされるITサービスが合意された内容で提供されることである。たとえば、平日9時～21時までサービスを提供するサービスであれば、その時間内に停止せずサービスが提供されることである。
- ア：合意された時間以外でサービスが停止した場合は可用性低下とならない。
- イ：ITサービスの可用性は合意を持って決定される。信頼性を高めなくても、必要とされる要件に合わせて提供されることが可用性の信頼性である。
- エ：可用性100%というのは、事実上不可能である。ハード障害やソフトウェアの障害を0にすることは非常に困難である。

**問 17****エ**

- 不正アクセス禁止法とは、アクセス権限のないコンピュータ資源に対して、不正に取得したIDやパスワードを用いたり、その他の攻撃手法によりアクセスを行うことを犯罪として定義したものである。
- ア：サーバ管理者であるため、自社の営業秘密をダウンロードすることに違法性はない。
- イ：ポートスキャンはサーバの状態を見るだけの処理であり、不正なID等によるアクセスではないため、不正アクセス禁止法違反ではない。
- ウ：利用者認証機能をもたないサーバにアクセスしているため、アクセス制御が無い場合は不正アクセス禁止法違反とならない。

問題

問 18

正解

完璧

直前
CHECK

プロジェクトマネージャのP氏は、A社から受託予定のソフトウェア開発を行うために、X社から一時的な要員派遣を受けることを検討している。労働者派遣法に照らして適切なものはどれか。

- ア 厳しいスケジュールが見込まれることから、X社へ^{かし}瑕疵担保責任を負わせる契約案を提示した。
- イ 前回委託した際にプロジェクトの成功に大きく貢献したX社のY氏の参加を契約の条件とした。
- ウ 派遣される要員のスキルを適切に判断しようと考え、事前にX社の派遣候補者を面接した。
- エ 派遣者への業務指示など、派遣に伴う各種業務をP氏が直接行うことをX社に伝えた。

問 19

正解

完璧

直前
CHECK

会社法に基づく監査委員会の役割はどれか。

- ア 委員会設置会社の機関であり、取締役及び執行役の職務の執行を監査し、株主総会に提出する会計監査人の選任などに関する議案の内容を決定する。
- イ 大会社である公開会社に設置が義務付けられている機関であり、監査役及び監査役会を統括する。
- ウ 日本公認会計士協会に設置される機関であり、公認会計士監査に関する実務上の指針である監査基準委員会報告書を公表する。
- エ 連結グループに属する会社法監査対象会社の会計監査人によって構成される機関であり、連結グループに属する会社の監査役の活動を監査する。

**問 18****工**

労働者派遣法では、派遣労働者を特定する行為（面接や指名）を禁止している。また、派遣は成果物に対して責任を負わないため、未達の場合にペナルティを課すことはできない。

第二十六条

労働者派遣（紹介予定派遣を除く。）の役務の提供を受けようとする者は、労働者派遣契約の締結に際し、当該労働者派遣契約に基づく労働者派遣に係る派遣労働者を特定することを目的とする行為をしないように努めなければならない。

- ア：ペナルティを条項は設定できない。
イ、ウ：指名や、面接はできない。

**問 19****ア**

会社法第2条12号に規定された**委員会設置会社**とは、株式会社の内部組織形態に基づく分類の一つであり、指名委員会、監査委員会、報酬委員会の三つを置く株式会社をいう。

会社法第404条に監査委員会の職務が定義されている。

- 一 執行役等（執行役及び取締役をいい、会計参与設置会社にあつては、執行役、取締役及び会計参与をいう。以下この節において同じ。）の職務の執行の監査及び監査報告の作成
- 二 株主総会に提出する会計監査人の選任及び解任並びに会計監査人を再任しないことに関する議案の内容の決定

問題

問 20

正解

完璧



直前
CHECK

CIOの役割を説明したものはどれか。

- ア 情報化戦略を立案するに当たって、経営戦略を支援するために、企業全体情報資源への投資効果を最適化するプランを策定する。
- イ 情報システム開発・運用に関する状況を把握して、全社情報システムが最適に機能するように具体的に改善点を示唆する。
- ウ 情報システムが企業活動に対して健全に機能しているかどうかを監査することによって、情報システム部門にアドバイスを与える。
- エ 全社情報システムの最適な運営が行えるように、情報システムに関する問合せやトラブルに関する報告を受け、担当者に具体的指示を与える。

問 21

正解

完璧



直前
CHECK

関係データベースの表XとYを結合した後、実行結果Zを得る演算はどれか。

X

学生番号	氏名	学部コード
1	山田太郎	A
2	情報一郎	B
3	鈴木花子	A
4	技術五郎	B
5	小林次郎	A
6	試験桃子	A

Y

学部コード	学部名
A	工学部
B	情報学部
C	文学部

実行結果Z

学部名	学生番号	氏名
情報学部	2	情報一郎
情報学部	4	技術五郎

- ア 射影と選択 イ 射影と和 ウ 選択 エ 選択と和

**問20****ア**

CIO (Chief Information Officer) は、経営方針に沿った情報化戦略を立案し、実行する責任者である。

ア：正しい。CIOの役割である。

イ、エ：情報システム部門の役割である。

ウ：監査部門の役割である。

**▼
解答****問21****ア**

射影 (projection)：表を構成する項目（属性，列）の中から特定の項目だけを取り出して新しい表を作成すること。関係データベースにおいては，表から特定の「属性」を取り出す関係演算がこれにあたる。

選択 (selection)：表の中から，項目（属性，列）が一定条件を満足する行だけを取り出して新しい表を作成すること。関係データベースにおいては，表から条件に合った「組」を取り出す関係演算である。

和 (union)：表の中から属性項目が同じレコードをすべて結合させる演算。実行結果Zを得るには，射影による列の取り出しと，学部名の選択が必要である。

問 22

正解

完璧



直前
CHECK

イーサネットで使用される媒体アクセス制御方式である CSMA/CD の説明として適切なものはどれか。

- ア それぞれのステーションがキャリア検知を行うとともに、送信データの衝突が起きた場合は再送する。
- イ タイムスロットと呼ばれる単位で分割して、同一周波数において複数の通信を可能にする。
- ウ データ送受信の開始時にデータ送受信のネゴシエーションとして RTS/CTS 方式を用い、受信の確認は ACK を使用する。
- エ 伝送路上にトークンを巡回させ、トークンを受け取った端末だけがデータを送信できる。

問 23

正解

完璧



直前
CHECK

経済産業省の“システム管理基準”に該当する記述はどれか。

- ア ITIL という IT サービスの品質向上のためのガイドラインを基に作成した、IT サービスマネジメントに関するフレームワークである。
- イ 一般基準、実施基準及び報告基準から構成されており、一般基準ではシステム監査人の独立性や職業倫理について規定されている。
- ウ システム監査業務の品質を確保し、有効かつ効率的に監査を実施することを目的とした監査人の行為規範である。
- エ 情報システム戦略に基づき、効果的な情報システム投資のための、また、リスクを低減するためのコントロールを適切に整備・運用するための実践規範である。

問 24

正解

完璧



直前
CHECK

要件定義フェーズにおいて BPMN (Business Process Modeling Notation) を導入する効果として、適切なものはどれか。

- ア 業務実施状況や実績を定量的に把握できる。
- イ 業務の流れを統一的な表記方法で表現できる。
- ウ 定義された業務要件からデータモデルを自動生成できる。
- エ 要件を E-R 図によって明確に表現できる。

**問 22****ア**

CSMA/CD (Carrier Sense Multiple Access/Collision Detect) とは、イーサネットの LAN 上のケーブルに接続されたたくさんのノードが通信を円滑に行うために送信する方法と、同時に送信してお互いの情報がぶつかった場合の対処方法を決めたものである。

- ① ノードは送信する前に LAN の状態を確認する (Carrier Sense)。
- ② ネットワーク上に空きがあれば送信を開始。
- ③ 空いていないときは、空くまで待つ。
- ④ 送信している間、LAN で衝突が起こらないかを常に監視する。
- ⑤ 衝突を検出したら送信を止め、JAM 信号を発生させて衝突を他のノードに知らせる。
- ⑥ 適当な待ち時間を置き、再度①からやり直す。

ア：CSMA/CD の説明である。

イ：TDMA (Time Division Multiple Access) の説明である。

ウ：IEEE802.11 (無線 LAN) の説明である。

エ：トークンリングの説明である。

**問 23****工**

システム管理基準は、経済産業省が公表するシステム管理に関する実践規範である。

ア：ITIL (IT Infrastructure Library) に関する説明。ITIL は、システム管理・運用規則に関するベストプラクティスである。IT サービスとは従来の運用管理、保守管理のことで、そのサービスマネジメントはサービスサポートとサービスデリバリの二つに分類されている。

イ、ウ：システム監査基準に関する説明である。

エ：システム管理基準の説明である。

**問 24****イ**

BPMN (Business Process Modeling Notation) は、ビジネスプロセス (業務手順) を図によって可視化するためのルールを定義したものである。図により業務を容易に理解できるようになる。



プロダクトポートフォリオマネジメント（PPM）において、投資用の資金源と位置付けられる事業はどれか。

- ア 市場成長率が高く、相対的市場占有率が高い事業
- イ 市場成長率が高く、相対的市場占有率が低い事業
- ウ 市場成長率が低く、相対的市場占有率が高い事業
- エ 市場成長率が低く、相対的市場占有率が低い事業

**問25****ウ**

投資用資金の面からみると、市場成長率が低い場合は、成長が望めない代わりに新規の投資はあまり必要ないので、資金は余る。投資用の資金源を供給できるのは、市場成長率が低く、市場占有率が高い事業である。